

石田 三治（いしだ・さんじ）

1、プロフィール

1917(大正6)年に「トルストイの音楽論」を発表したほか 70 余の評論を「トルストイ研究」などの雑誌に発表して絵画・美術・宗教などの論評を行った。「大学評論」の同人会員。

<生没>

1890(明治 23)年2月 13 日 ~ 1919(大正8)年 10 月 20 日

<代表作>

翻訳『トルストイ書簡集』

評論『全トルストイ』『トルストイ神秘主義批判』『トルストイズムの発生的研究』

<青森との関わり>

4歳から七戸で育ち、七戸小学校を卒業後神奈川県や東京で活躍した。没後七戸町青岩寺に埋葬された。

2、作家解説

石田三治はトルストイの研究で知られた美術評論家であった。彼は「いや僕はトルストイの人物と思想とを研究する一人ではあるが、トルストイ崇拝者ではない。」と言っていたという。これは雑誌「開拓者」を初め「六合雑誌」、「新潮」、「トルストイ研究」、「大学評論」及び「我等」などに、その文章が載ってトルストイに関する権威者であることを知り、トルストイ崇拝者が彼の所に訪ねて来た際に、自分の態度を表明したということのようである。それ故に「トルストイの間違った考え」を指摘した。「芸術批評に於けるトルストイ説の価値」の中で、トルストイの音楽論を批判したり、同絵画論を検討したりして「たしかに彼の芸術的認識の貧弱を示すものと、いわなければならないもの」と断定して、この大文豪の説に手厳しい。「吾々は、こんな画論に左右される必要はない。虚心坦懐で美人の絵に対しては美人の意

識をもって心をひかれて差支えない。」といている。1917(大正6)年 28 歳の所論である。

3、資料紹介

○『トルストイ書簡集』(翻訳)

図書

1918(大正7)年4月 12 日

156mm×112mm

開巻第一の手紙、即ちエルゴルスカヤの小母さんへ宛てた 1851 年3月8日の手紙だけは仏語で書かれた原文からの直接訳で、他は概ね独訳に拠り、一部分は英訳に拠った(凡例)。此集が彼(トルストイ)の内的生活を知る上に多少の参考資料を提供し得ればそれで満足である。(序)